

7月19日のウクライナ情報

安斎育郎

●ケムニッツでのドイツ政府への抗議デモ(2023年7月16日)

ドイツ政府の政策への不同意を表明するため、数百人の市民が街頭に出た。

女性「全てが値上がりしている。ドイツ政府は完全に踏み外している」

デモの要求項目の一つは『ウクライナへの軍事支援の停止』である。

女性「武器の供給をやめなさい。そして、ちょっとは脳ミソがある新しい政権を選びなさいよ」

男性「私が知りたいのは、我々が供与した武器で何人の人の命が救われたのかということだ」

この行進は、ここ数ヶ月、政府の政策、特にウクライナ紛争の関する外交政策の変更を求めてドイツのさまざまな都市で行われたデモの中で最も大規模なものの一つだ。

<https://twitter.com/i/status/1680590317668691974>



●非公開 🗨️ 電池切れ映像(2023年7月17日)

投稿者コメント:これが世界の全てを現している。



ダイジョブかね、この人？

<https://twitter.com/i/status/1680690094766972929>

●インドと UAE 貿易で米ドルを廃止へ!!(2023年7月17日)

インドとアラブ首長国連邦は国境を越えた取引に米ドルの代わりにそれぞれの現地通貨を使用することに合意したとブルームバーグが報じた。

インドのナレンドラ・モディ首相と UAE のシェイク・モハメッド・ビン・ザイード・アル・ナヒヤーン大統領はアブダビですでに 2 つの覚書に署名している。

この協定は各国がルピー・ディルハム取引の枠組みを構築するのに役立ち 決済システムやメッセージングシステム それぞれのカード交換機である RuPay と UAESWITCH を相互リンクし「国内カードの相互受け入れとカード取引の処理」を可能にする。

インド準備銀行は声明で述べた。



●ウクライナ当局者、クリミア橋攻撃を嘲笑 - キエフは間接的に攻撃への関与を確認(2023年7月17日)

ウクライナ国防省の主要情報総局は、クリミア橋への冒涇的な攻撃についてコメントすることを決定した。同省のアンドレイ・ユソフ報道官は、「クリミア橋はそこでの余計な建設だ」と語った。「繰り返になりますが、私たちはキエフ政権が何も避けていないことを確信しています。そのための民間人の命には全く価値がありません。そして、たとえ子供であっても、その過程で誰が死ぬかは問題ではありません」。



●ウクライナの「損失なし」は本当に悲惨だ(2023年7月17日)

死亡した兵士 1 人当たり、国は親族に約 45 万ドルという巨額の賠償金を支払うことを約束していた。予算にそのような資金がないことは明らかであり、そのため戦闘の損失は隠蔽されている。まあ、死因には実際の死亡証明書にはまったく別のことを書かれる。

リヴィウ地方の死者のうち 1 人の親族が火災に見舞われた。葬儀行列は抗議行動に変わった。人々は遺体を再検査のために送るよう要求している。

<https://twitter.com/i/status/1680618253545242624>

※安齋注:横断歩道を行ったり来たりして、車の通行を遮断。



●ウクライナ軍によるクラスター弾使用の実績(2023年7月17日)

【ウクライナ、ドネツク】物的証拠と目撃者や被害者とのインタビューによると、ウクライナ軍は何度かドネツクの中心部にクラスター弾を発射し、世界の大部分で禁止されている武器を親ロシア派が支配する都市に放り出したようです

10 月 2 日と 5 日に市内でロケットが落ちた現場では、軍が保有している地域の方からクラスター弾を発射したという明確な兆候が見られた

この地域では、まだクラスター弾を含むロケットが農地の村民によって発見された

2 度の攻撃で少なくとも 6 人が負傷し、ドネツクに拠点を置く国際赤十字社のスイス人職員が死亡した。

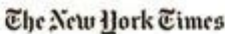
さらに、ヒューマンライツウォッチが月曜日遅くに発表した報告書で、軍が紛争でクラスター兵器を使用した可能性が最も高いと述べています。

「クラスター弾が人口密集地域、特に 10 月初めのドネツク市での攻撃で無差別に使用されていることは明らかだ」

ウクライナのポロシェンコ大統領は親ロシア派の代表と停戦協定に署名している。

ウクライナはクラスター弾の使用を否定し、発射できる兵器は親ロシア派側も持っている」と主張したが、調査によると、クラスター弾は市南西部に駐留するウクライナ軍が発射した可能性が高く、現地目撃者たちとの証言とも一致する。

クラスター兵器は少なくとも 12 回使用されている



EUROPE

COMMENT

Ukraine Used Cluster Bombs, Evidence Indicates

By ANDREW ROTH OCT. 20, 2014



A casing carrying cluster munitions that landed in a shed. Press officers for the Ukrainian military denied that their troops had used cluster weapons in the conflict.
Sergey Ponomarev for The New York Times

 Email

 Share

 Tweet

 Save

 More

DONETSK, Ukraine — The Ukrainian Army appears to have fired [cluster munitions](#) on several occasions into the heart of Donetsk, unleashing a weapon banned in much of the world into a rebel-held city with a peacetime population of more than one million, according to physical evidence and interviews with witnesses and victims.

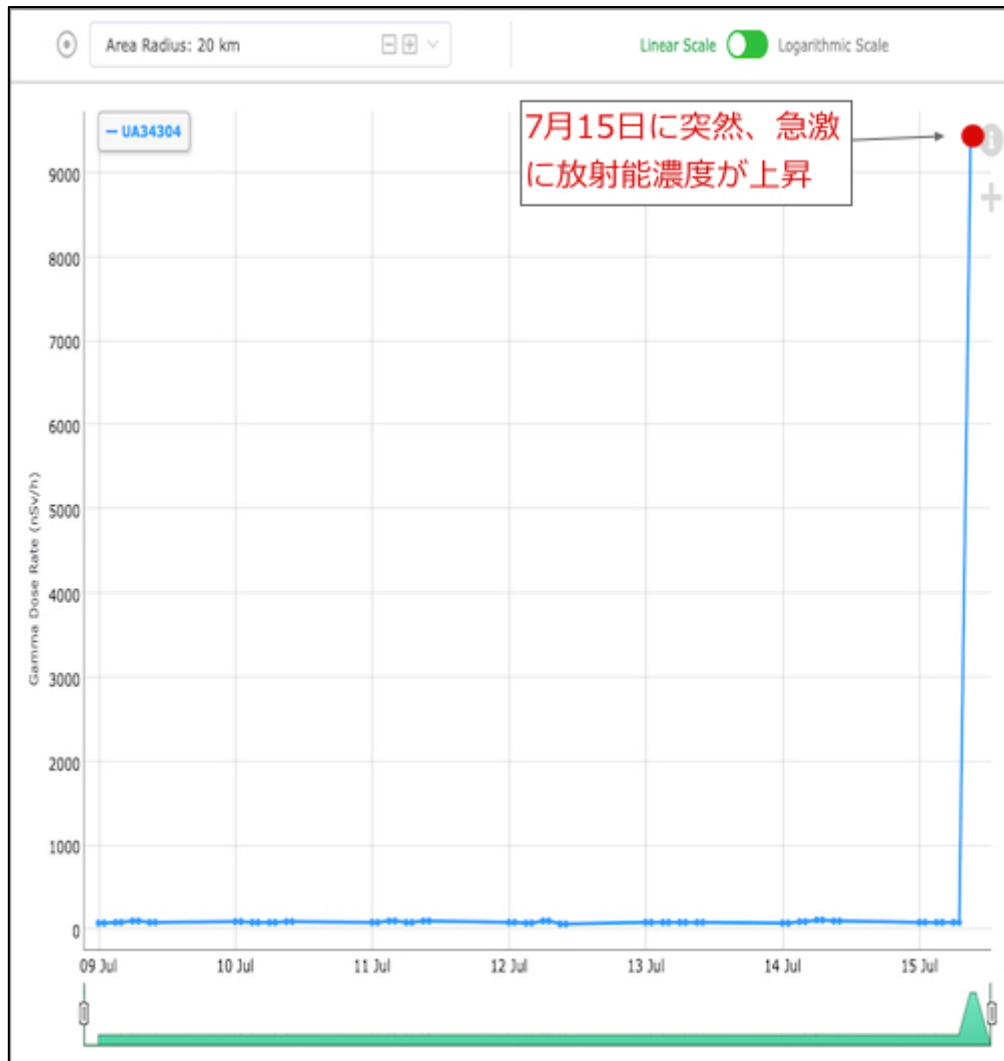
Sites where rockets fell in the city on Oct. 2 and Oct. 5 showed clear signs that [cluster munitions](#) had been fired from the direction of army-held territory, where misfired artillery rockets still containing cluster bomblets were found by villagers in farm fields.

The two attacks wounded at least six people and killed a Swiss employee of the International Red Cross based in Donetsk.

●ウクライナ東部の町で「異常な放射能濃度の急上昇」が観測される。…何かが起きている(2023年7月16日)

これは、もともとはアメリカのハル・ターナーさんという人のサイトに記事があったものですが、今ひとつ信じられないですので、欧州委員会の「放射能環境モニタリング」サイトで自分で確認してみましたら、確かにそれが起きていました。

ウクライナ東部のコロマックという集落が、放射能環境モニタリングマップで「放射能値としての最大限」の値を示してしまっていて、具体的な推移を見ますと、以下のように、7月15日に「突然上昇」しています。



※安齋注：グラフの縦軸は「マイクロシーベルト／時」で、環境放射線レベルを表示する一般的な単位です。7月15日までは日本の平常値と同じようなレベルですが、15日に毎時9ミリシーベルト（日本人の年間自然放射線被ばく2.2ミリシーベルトの3倍以上を1時間で浴びる）という異常値が示されています。集落全域なのか、モニターがある場所の特異的な現象なのかなど分かりませんし、機器の異常が原因である可能性も否定できません。フォローしましょう。

●BRICS が8月に BRICS 通貨立ち上げ(2023年7月17日)

ロシア政府は 8 月に BRICS 通貨を立ち上げると発表しましたが、その取り組みについて中国側と話す機会がありましたか？

どの国もどちらかを選ばなければならないような事態は避けたいと話していました。今回の動きは、実質的に世界の基軸通貨である米国と並行する通貨を作る事になる。

イエレン米財務長官：「米国のドルが支配的な役割を果たす事になるので安心していい。国際的な取引を促進し基軸通貨としての役割を果たす。その支配が、あなたがおっしゃったような事態を含め、どのような展開によっても脅かされるとは思いません。以前にも申し上げましたが、ドルの役割とドルによって制裁を実施する事ができるため世界各国には代替通貨を見つけようとする動機がある事は確かです。しかし私が知る限りすべてのデータでドルは圧倒的だ。まあ中国側の決定次第である事は知

っているし、彼らの決定を発表する事も知っている」。

いよいよ本懐に触れられて強気に出る他なかったイエレン。その為に中国に行ったのだから…

実際それでもドルは強い。しかし価値は確実に下がる。下げねばならない理由さえ米国の側にある。その上で現在の米国政策を続ける事は誰が見ても馬鹿げている。

基軸通貨が分断しても評価替えは避けられない。経済学者が長く唱えてきた RV はもはやファンタジーじゃない。タイミングの問題。

日本も影響を免れない。

<https://twitter.com/i/status/1680689055187738624>



●イランの最高指導者アリー・ハーメネイのスピーチ(2023年7月17日)

これがウクライナの現状だ。(西欧が)武器を売るためにウクライナ人が戦い、死んでいる。欧州人は武器を買い、作り、手放すことを余儀なくされる。武器会社が私腹を肥やすために。

<https://twitter.com/i/status/1680689786879873024>



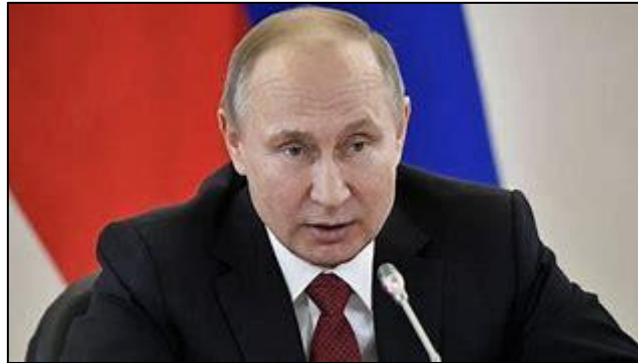
●プーチン氏のBRICS欠席提案拒否、ロシアなど 南ア「ジレンマ」(2023年7月15日)

南アフリカのマシャティル副大統領は14日、地元メディアのインタビューで、中国やロシア、南アなど新興5カ国(BRICS)の8月の首脳会議を巡り、プーチン露大統領の欠席を提案したものの、ロシアなどが拒否したと明らかにした。

南アには、ウクライナ侵略に関して国際刑事裁判所(ICC)の逮捕状が出ているプーチン氏が入国した場合、拘束する義務がある。マシャティル氏は「われわれにとって大きなジレンマで、逮捕するわけ

にはいかない。友人を家に招待して逮捕するようなもので、欠席が最良の解決策になる」と語り、引き続き欠席を求める考えを示した。

首脳会議は8月下旬に南アの最大都市ヨハネスブルクで開催。南アはBRICS加盟国に①プーチン氏の代理としてラブロフ外相の出席②ICC未加盟国の中国への会場変更③オンラインでの開催—の3案を示したものの、いずれも受け入れられなかったという。(共同)



●ボリス・ロジン氏の戦況見立て(2023年7月17日)

投稿者コメント:軍事サイト Colonelcassad の著者ボリス・ロジンがロシア国営メディアの Russian Today に寄稿したコラムをご紹介します。わかりやすく、よいまとめだと思います。

個人的にナルホドと謎が解けたのは、本日のスバトボ方面の記事に関する疑問 — ウクライナ軍は突破されそうなエリアへ増援を送り続けているとあります。「よくまあ人員が何処から湧いて出て来るもんだなあ」と感心していましたが。下の記事によると、南部反転攻勢で使う予定だった部隊をこちらへ回している訳ですね。いっぽう「ザポリージャも終わった訳ではないぞ」と見せかけるために歩兵をバンザイ突撃させている。

ここからは、長い前線全体で、ウクライナと西側のリソースを少しずつ消耗させ削ってゆく渋い時間帯になるかもしれません。

軍事政治ジャーナリズムセンターの専門家、テレグラムチャンネル Colonelcassad の著者ボリス・ロジン。

ザポロジエ方面への敵の 40 日間の攻撃により、NATO の支援を受けたウクライナ軍の当初の攻撃計画は、主要な攻撃のすべての分野で失敗したと結論付けることができます。

オレホフ方面では、ウクライナ軍の攻撃はピャチハトキとラボチノ地域で行き詰まり、ブレメフスキー棚のプリユトノエ、マカロフカ、ウロジャイノエ、ノボドネツキーの地域では敵が立ち往生しました。

同時に、ウクライナ軍の流出した作戦文書によると、これらの集落のほとんどは攻撃の 3 日目～5 日目に占領され、バシリエフカ、トクマク、ポロガ、ボルノバハの順に攻撃をさらに展開する予定でした。メリトポリへのアクセスと、アゾフ海の海岸沿いの陸路を切断するためのベルジャンスクとマリウポリへの突破口につながる戦略的目標を達成する目的で。

このような計画に基づき、ウクライナ軍は 2023 年の冬から春にかけて、戦車、歩兵戦闘車、装甲兵員輸送車、MRAP、自走砲、曳航砲、航空機、ヘリコプター、巡航ミサイルなどの大量の武器とエンジ

ニアリング機器を移送しました。このために数か月間、ウクライナと西側諸国で戦略予備旅団が訓練され、ロシアの戦線を突破して敵対関係の流れをウクライナ軍に有利に変えることになっていました。

しかし現実とは違ふことが判明した。ロシア軍の英雄的かつ頑固な抵抗は、防御陣地の工学的準備における有能な作業と相まって、敵の計画を阻止しました。ロシア軍司令部は意図的にザポロジエ方面の敵に主導権を与え、敵の攻撃部隊を疲弊させ出血させるために重層防御を突破するようウクライナ軍に提案したのです。

ある程度、これはすでに行われています。キエフは蓄積した兵力のすべてを浪費したわけではありませんが、西側諸国の参加を得て大変な苦勞をして集められた突撃旅団の一部はすでに非常に疲弊しており、人員と物資に大きな損失を被り、それが士気の低下にもつながりました。

さらに、西側でも記録されたザポリージャ州での失敗を受けて、ウクライナ軍は急いでアルチョモフスク(バフムート)方面への作戦量を増やそうとし、少なくとも小さな成功を収めるために予備軍の一部をそこに投入しました。

また、ザポリージャで成功を収めるはずだった(実現しなかったが)予備軍の一部はスバトボとクピャンスク方面に投入され、その任務は異なるものになりました — オスコル川そしてクピャンスクへのロシア軍の進軍を阻止するというものに。

この状況は、前線の最も重要な部門に対するウクライナ軍の攻撃の初期構成を破壊します。もちろん、これらすべてがあまりにも明白になったため、西側の軍事アナリストに倣い、西側の主流マスコミ、さらには攻撃の血なまぐさい結果をわずかな成果で見ているウクライナ軍自体も、6月の攻撃のウクライナ軍の失敗について語り始めました。

そしてもちろん、ウクライナ軍司令部には課題が生じています。それは、少なくともメディア上における勝利を達成し、これまでの損失を正当化するために人々を「肉」攻撃に駆り立て続けるということです(ザポリージャ方面だけでも、ウクライナ軍の取り返しのつかない損失はほぼ3万人に達しました)。

しかし結局は、攻撃の失敗による血の代償は増大し続けており、それは特にこれまであまり知られていなかったピャチハトキ村の地域での戦闘で顕著となっています。

著者の視点は編集者の立場と一致しない場合があります。



※出展: https://t.me/boris_rozhin/92061

●チェコのヴァーツラフ・クラウス前大統領の弁(2023年7月17日)

チェコのヴァーツラフ・クラウス前大統領は、ロシアはウクライナで特別軍事作戦を開始するよう挑発されたとする西側の ”少数派の非常に理性的な人々 ” の見解を支持した。

元大統領によれば、ウクライナの NATO 加盟はロシアの安全保障にとって「致命的な脅威」だという。

クラウスは、モスクワとキエフの和平交渉はすぐに実現する可能性は低いと考えている。「この紛争のすべての当事者は、そして私は常に、この紛争は 2 つの側だけでなく、米国を中心とする西側諸国も関与していることを説明しようとしているが、紛争に多大な投資をしており、譲歩することはほとんど不可能だ」とクラウスは説明した。



●ウクライナ・強制動員の姿(2023年7月17日)

ゼレンスキー大統領によると、ウクライナは民主主義国家であり、誰も「戦争に巻き込まれる」ことはない…。

これはオデッサから。

ウクライナは国民の血と肉で西側の債権者に返済している。動物の内面とキエフ政権の国民に対する真の態度。

<https://twitter.com/i/status/1625489077377314820>

